



至る所にある梵語
浙江省には名山や道場が多く、国内外にもよく知られている。寺院巡りは、禅に近づく旅であり、浙江文化を知る窓口でもある。



湖州 太湖仏せき

中国の書画の歴史と言えば、半分は湖州にある。2300年以上の歴史を持つ湖州は、中国の人文聖地であり、仏教が東へ広まった主な発祥地でもある。日本の円通大応国師はかつて万寿寺の住職である運庵を師とした。「日本三大文豪」の一人である雪村友梅も湖州を拝謁したことがある。また、僧侶の東拙は病氣のため、安吉霊峰寺に滞在し、この自然風景と仏教的雰囲気魅了されて離れなくなつたと言われている。



湖州は当時から山水が清らかで遠いことで有名であり、湖州で高みに登って遠くを眺めると、南には莫幹山と天目山が見える。高くそびえ立っていて、雲霧がほんやりしている。近くには千、毗、硯、蜀の四つの山が繋がっており、山と湖に寄りかかり、山に抱かれ、水が流れている、まるですっきりとして優雅で静かな山水画のようである。「浙北第一禅林」道場山から出発し、「浙北第一山」である毗山を経由して、最終的に太湖の法華寺にたどり着く。幾重にも重なりあい峰々に曲がりくねった小径、溢れ出る泉など、参禅と悟りに絶好の場所である。

杭州 靈隠ほどう

ここは杭州で最も禅の音が盛んな場所である。初めて禅宗を日本に広めた覚阿は靈隠寺で学んだ後に帰国した。永福寺東泉の心越禅師は東へ仏教の知識普及のために招かれた。日本の茶室や禅院ではトイレを「雷隠」と命名したが、それも雪竇禅師が靈隠のトイレに身を隠して修行し、最後に悟った伝説から来ている。



温州 甌江禅林

「東甌名城」である温州は悠久な歴史と文化を持つ都市で、気候は穏やかで、四季は春のようであり、山、江、海、湖、島、泉などの自然風景もあれば、博大で奥深い文化の蓄積もある。温州の仏教文化は1700年以上前に始まり、そのうち、甌江に位置する江心嶼は最も歴史が長い。多くの日本、朝鮮からの僧侶が研究・参禅し、温州の仏教文化交流に先鞭をつけた。仙岩観光区の聖寿禅寺から雁蕩山の法華寺まで、「九獅一象」、「五潭二井」と呼ばれる各種の繋がった泉、重なった池、緑の池や井、天然の棧洞、古木や茶の花など、温州ならではの景色を眺めることができる。





浙江省には東晋の時代から寺院が林立している。無数の宗派がここから始まり、高僧の僧侶の事績は言うまでもなく、仏学の隆盛も他地域では見られない。海辺の都市として浙江仏教はまた文化文脈の面でも重要な役割を果たし、またアジアまで影響を及ぼした。

美しい山や水の潤いが多く、包括的なこの文化的な雰囲気をもつた。多くの山水の名勝が省内の至るところにあり、奇異な自然景観、豊富な人文遺産、古きよき伝統と現代文明が渾然として一体をなしている美しさ。そのすべてに反映されている。重厚な歴史が輝かしい異趣文化と仏教浙江を創造した。

概

要



山紫水明の清浄な仏国土

天台山・国清寺



五つの峰が重なり合い、茂った木々が天台山を取り囲む。二本の溪流が抱くような格好で、幾重にも重なる緑の林に囲まれて、国清寺ははっきりと見えない。日本の僧侶に崇められている天台宗祖庭は、隋の時代から世を避けてきた君子のように、千年の間、天台に深く隠れ、たどり着くには多少の努力が必要な桃源郷なのである。



高くそびえる廟宇に祥の深い意味が吹き込まれ、まるで意味深長な寓話のようである。西の天竺からシルクロードを経て伝わった仏教の教えを受け継ぎ、また海上シルクロードを経て東の日本へ禅宗が伝わった。今、日本一の寺である永平寺には、祖師道元が天童寺から持ち帰った曹洞宗の知恵が今も息づいている。歴史に刻まれた浙江省と日本の交流の印は、今も明るく輝いており、洋々たる過去から未来へとずっと続いていく。

金色の銀杏 千年の寺

太白山・天童寺

うねうねと続く太白山の麓に、天童寺は千年もの間、ずっと佇んでいる。

山々に囲まれ、山々を鎮める天童寺。寺院内の殿堂は、山の地形に沿って次第に高くなる階段状に配置されている。階段に立ち、下を眺めてみると、黒く染まった屋根瓦が波のように伸びていき、雑然としながらも実に趣がある。



天童寺の1700年以上の輝かしい歴史を載せた寧波は、どこに寄り添っても清らかで美しい山水と濃厚な人文を感じられる都市である。ここに古今の書籍が集まり、各地へ通じる港があって、海の幸と混ざる海風が江南都市の優れた気性とスタイルが伝わる。7000年前の河姆渡文化の発祥地であり、唐の時代の海上シルクロードの起点の一つでもある。また、蔣氏の故郷、儒商を育んだ土地、仏教の聖地である。ここは古めかしくも優雅でありながら、ダイナミズムな要素も合わされ、大自然からの趣と都市の躍動感が完全に融合されて、奥深い文化が川のようにゆったりと山水の間を流れている。この気品のある文藝都市で数日間回れば、きっと幸福感で満たされるだろう！



仏教の教えは奥深い。仏教の思想を深く解釈してきた国清寺は古来より日中仏教交流の聖地とされてきた。鑑真が東へ渡り、空海が唐で仏教を学び、最澄と栄西が法を学習するなど、多くの文化交流の印は、仏教の輪廻転生を媒体として千年に渡って、脈々と続いている。

寺が建てられれば、国が平和になる。寺院の山形の壁は、清浄で穏やかな時間の流れの中で色がまだらになり、ゆつたりとしている。このの草木や溪流のせせらぎの中を歩いていると、長い歴史で歩を進めているかのようで、海を渡ってきた無数の僧侶たちが、山水の間で長年にわたり修行してきたことを目の当たりにする。

「蘇州・杭州を遍歴しても、温黄に及ばない。」国清寺のある台州市は、悠久の歴史を有しており、5000年前から人々はこの地に住み、古くから「海上の名山」として知られている。「仏、山、海、城、湖」は台州で最も特色のある五つの景観であり、市内には有名な自然風景や歴史・人文観光スポットが数多くある。ここでは、江南の诗情と朦朧さだけでなく、漁民の家の濃厚な風情や浙江東部の特色のある山の風景を体験できる。



山と海の美しさは普陀山が

普陀山

山と湖の風景と言えば、西湖に勝るものはない。そして山と海の風景と言えば、普陀だ。916年、日本の臨済宗の名僧惠等は、五台山から観音像を日本に持ち帰る際、普陀山に差し掛かると、何度も強風や濃霧に遭った。彼は、「観音像がここから離れたくない」と感嘆した結果、地元の人々とともに、潮音洞の前の紫竹林に「不肯去観音院」（行かず観音）を建設した。それで普陀山が観音を奉る道場になったのである。



現在の普陀山は、寺塔や崖刻（崖に刻まれた文字、壁画）が所々にあり、梵語や波の音が絶えず耳に入ってくる場所で、島のどこにいても海と禅の魅力を感じることができる。海風が怒鳴り、波が乱れていても、荒波のように感じさせない。ただ、この不思議な景観に心を高揚させ、まるで蒼龍が海に横たわるような壮観な仏国の世界が目の前に現れたようである。



中国最古の群島都市である舟山には、普陀のほか、嵎泗列島、岱山、桃花島など景色が様々な美しい海島や、有名な漁港である瀛家門、中国唯一の海島歴史文化都市である定海など魅力的な観光スポットが数多くある。毎年、国際砂彫節（国際サンドフェスティバル）、南海観音文化節、中国海鮮美食節、中国海洋文化節がここで開催され、多くの観光客を引き付けている。

「東南第一禅院」と呼ばれる 径山・径山寺

浙江余杭から北西へ行くと、1200年あまりの古刹が依然として荘厳な姿で残り、鐘や太鼓が鳴り響いている。径山寺では、世間を離れた山中の静かな力を体感することができる。

唐の時代から悟りの道が広く開放され、日本の禅宗24流派のうち18流派がこの地で生まれた。日本の僧侶たちは何世代にもわたり仏教を持ち帰って、禅の悟りと茶の性をあちこちに広めてきた。何年経っても、かつて心を清めて修行していた径山飛接湧殿と白い泡が浮いている冬の暖かいお茶を懐かしむのだろう。

径山は竹で覆われた山であり、天目山脈の北東峰に属し、天目山まで二本の細い経路があることから径山と名付けられた。宋代に江南五山十刹のトップとして、「江南第一山」と呼ばれている。山には古木が高くそびえ立ち、優雅な環境で、山の中腹には清らかな水を湛えた池がある。桐橋から径山寺までの約8キロの道のりには、桐橋亭、進善亭、半山亭、冷亭、望江亭などがあり、「聖寿無疆」「仏聖水」などの南宋時代の石刻が残されている。また、東坡洗砚池、金線竹、孝宗御碑亭などの古跡も見られる。

